

この記事・写真は岩手日報社の許諾を得て転載しています。

女子団体1回戦 花北青雲―文化学園長野 第1ダブルスを取った
花北青雲の市原杏奈(左)・佐々木良幸組(右) 山形・新庄市体育館



花北青雲

女子、2回戦で涙

男子は1回戦敗れる

バドミントン

(鶴岡市小真木原総合体育館ほか)

▽男子団体1回戦
常総学院3(単1-00)○花北青雲
(茨城) 複2-00(若手)
○本田晃
○太田 2
○深谷 2
212217
142021
1 三浦大
生 吉田侑

▽女子団体1回戦
○内藤保 2
2121 1516
1516 山口健
○稀原悠
○勝間田 2
2121 1516
聖亜 希地一
安ヶ平 春輝

▽同2回戦
○中島陽 2
2121 1518
○月島優 2
211721 172111
○乃川優 2
211721 172111
○佐藤綾 2
212119 141921
○市原杏 2
212119 141921
○奈々木 2
212119 141921
○佐々木 2
212119 141921
○良幸 2
212119 141921
○市原杏 2
212119 141921

○林 2
2121 117
○上杉 2
2121 117
○鈴木 2
2121 104
○向沢 2
2121 104
○大沢 2
2121 104
○正田 2
2121 1313
○実田 2
2121 1313

○市原杏 2
212119 141921
○波川 2
212119 141921
○井有 2
212119 141921
○加藤里 2
212119 141921
○河菜 2
212119 141921
○河西 2
212119 141921
○伊藤千 2
212119 141921
○花西 2
212119 141921
○晶伊 2
212119 141921

○市原杏 2
212119 141921
○波川 2
212119 141921
○井有 2
212119 141921
○加藤里 2
212119 141921
○河菜 2
212119 141921
○河西 2
212119 141921
○伊藤千 2
212119 141921
○花西 2
212119 141921
○晶伊 2
212119 141921

けが一丸で乗り越え 女子

女子団体の花北青雲はけがから復帰した仲間とともに、インターハイ1勝を挙げた。主力の佐々木良幸(3年)は3月に左アキレス腱を断裂し、全治6カ月。欠場を余儀なくされた県高校総体は仲間が踏ん張って全国切符を獲得し、佐々木に活躍の場をつないだ。

文化学園長野との初戦。佐々木は市原杏奈(3年)と組み、第1ダブルスに臨んだ。第1ゲームを先取されても、市原は「残り二つ取ればいい」と動揺することはなかった。中学からペアを組んできただけに、息の合ったプレーで第2、3ゲームを連取し流れを引き寄せた。

第2ダブルスの佐藤綾乃主将・菊川優月(ともに3年組)は第3ゲームで12-6から6連続失点し、同点とされたが、佐藤主将は「守ってばかりじゃ勝てない」と攻めに転じ、競り勝った。第1シングルのエース中島陽菜(2年)は危なげなく2-0で勝ち、ストレート勝ちで初戦を突破した。

けがの不安を抱える佐々木に、選手たちはドライブ練習のためにシャトルを出すなど居残り特訓に付き合い続けてきた。2回戦で第2シード菊玉栄に完敗したが、佐々木は「けがをしたからこそ、周りの人の大切さがあった。競技を続けてきたことは財産」と感謝した。(斎藤拓)